

## □はじめに

今回のキャンプのプログラムは・・・

**A** 一日目、9月30日の午後の部：学び、テーマは「伝道」

**B** 二日目、10月1日の午前の部：讃美、学び「聖書は何を教えているか」、そして聖餐式

1. 私たち信者は、神によってこの世から取り分けられ、救われ、永遠のいのちを与えられました。そして、キリストの弟子として、再びこの世に遣わされています。
2. 聖餐式は、キリストの死と葬りと復活を記念するとともに、信者をこの世に遣わし、「主が来られるまで主の死を告げ知らせる」(I コリ 11:26) ように、信者を励まし勧める儀式です。「主の死を告げ知らせる」とは、キリストの十字架の福音を伝えるということです。
3. 福音を伝えることを、「伝道」といいます。伝道は神の働きであり、私たち信者は聖霊の導きをうけて、その働きのために用いていただく立場です。
4. 聖書は、伝道について、その具体的な手順やマニュアルのようなものは教えていません。しかし、伝道のルール、あるいは原則というべきものはあります。私たち信者が伝道のルールを理解しておくことは、キリストの弟子として必要なことです。
5. 今回のキャンプでは、伝道について、そのルールを学び、私たちが神に用いていただけるための備えをしたいと思います。

## **A** 伝道について

1. 伝道とは何でしょうか
  - (1) 「伝道者ピリポ」(使徒 21:8~9)
  - (2) 「伝道者」の意味
  - (3) ピリポの活動(使徒 6:1~6、8:1~25、26~40)
  - (4) 結論：伝道とは、主から遣わされて、福音を伝えること

## 2. 伝道は誰がするのでしょうか

- (1) 聖霊の賜物の中に「伝道者の賜物」(エペソ 4 : 11) があります。すべての信者が伝道者の賜物をいただくわけではありませんから、伝道は特定の信者だけがするものなのでしょうか？
- (2) 伝道の基盤：信者が互いに愛し合うこと (ヨハネ 13 : 34~35)
- (3) 伝道の3つの意味
  - ① 広い意味：信者がキリストを証しすること (I コリ 11 : 26)
  - ② やや狭い意味：誰かの救いのために祈り、伝道者を遣わしてくださいと願った結果、自分が用いられ、遣わされるようになること(「十二使徒の派遣」の出来事からの適用、マタイ 9 : 37~38、10 : 1)
  - ③ 最も狭い意味：伝道者の賜物を用いて働くこと (エペソ 4 : 11)
    - パウロは「宣教者、使徒、教師」(I テモテ 2 : 7) に任命された。「宣教者」と訳されていることばは、直訳すると「先駆者」、これは、ロマ 15 : 20「キリストの名がまだ語られていない場所に福音を宣べ伝える」ことを指すものと思われる。
    - 伝道者ピリポの働きも先駆者的なところがある。
    - よって、伝道者の賜物とは、まだ福音が伝えられていない地域に福音を伝える働きと考えられる。
- (4) 結論：このキャンプでは、①と②の意味における伝道をテーマとします。この意味においては、伝道はすべての信者がするものです。

## 3. 伝道は誰にするのでしょうか

- (1) I テモテ 1 : 6 すべての人に
- (2) 「まずユダヤ人に」(ロマ 1 : 16) の原則
  - ① 異邦人への門を開いたのは、使徒ペテロ。これは、イエスの指示による(マタイ 16 : 19)
  - ② パウロは、異邦人のために立てられた使徒(使徒 9 : 15、ロマ 15 : 16、ガラ 2 : 7~8)
  - ③ パウロは、異邦人のための使徒であるが、宣教活動においては必ず「まずユダヤ人に」の原則を守った(使徒 13 : 5、14、46、14 : 1)

#### 4. 伝道の内容・・・福音を伝える

(1) イエスと神の国（使徒 19：4～8、20：24～25、28：23、31）

(2) 福音の三要素（I コリ 15：1～4）

#### 5. 伝道するときの信者の基本姿勢 5つ

(1) 「支払うべき負債」（ロマ 1：14）、当然なすべきこと

(2) キリストに代わる使節、キリストに代わって願う（懇願する）（II コリ 5：18～21）

(3) 聞いている人々をいやにさせるような論争をしてはならない（II テモテ 2：14）

(4) 私たちは、神とともに働く者であり、その務めは神の恵みを証しすること（II コリ 6：1～10）

(5) 日頃から用意をしておく（I ペテロ 3：14～16）

⇒ どのような用意をしておいたらよいのでしょうか、次の6番に。

6. 伝道で語るべきこと・・・聖書のことばをそのまま伝えるというのが基本です。神のことば（種）を相手の心に蒔くというつもりで、伝えましょう。次の12項目は、熊本聖書フォーラムの洗礼準備会などで信仰を確認するときに用いています。伝道するときのポイントにもなると思います。項目ごとに、自分ならどこの聖書箇所を引くのか、を書き留めておきましょう。12項目以外で、ご自分なりの項目を設けておくのも良いでしょう。特に、自分が救われたときに、心にとまった聖書箇所を思い出しながら書き留めておくと、自分の証しも共に語ることができます

(1) 天地万物の創造主なる神がおられる

- (2) 人は神を知りながら、神に背を向けている
- (3) 神は人の行いをさばく日を決めておられる
- (4) 神のさばきで無罪となる人は、ひとりもない
- (5) 神は人を愛し、救いの道を備えておられる
- (6) イエス・キリストの十字架を仰ぎ見ると、人は神の愛を知り、いのちを受ける
- (7) イエス・キリストは、復活し、天に昇った
- (8) 信者の死の時は、キリストが決める。信者の霊魂は、パラダイスに行く
- (9) イエス・キリストは教会の信者を迎えに来てくださる。そのとき、先に死んでいた、教会の信者たちは復活し、地上に立ち、再び天に引き上げられる（教会の携挙）
- (10) 地上に7年間の大患難期が来る。イエス・キリストは、地上に帰って来られる
- (11) イエス・キリストは王となって平和と正義の国を建てる。その国は千年間続く
- (12) 神は新しい天地を造り、神が人と共に住んでくださる

**B** 「聖書は何を教えているか」・・・キャンプ当日、会場にて資料を配布します